



新規就農者の受け入れや育成を進め、移住者の増加 → 再生農地拡大 → 地域資源の生産量拡大の好循環を作り上げ、地域を元気に！

#新規就農者、#遊休農地の活用、#地域資源の販売、#農泊、#農地利活用調査

### 対象地域

- (事務局名)  
釜ヶ沢みらい協議会事務局
- (地域の範囲)  
小学校区（8集落）
- (土地面積（R5.4月時点）)  
824ha
- (農地面積（R5.4月時点）)  
465ha
- (世帯数（R5.4月時点）)  
649戸

### 構成員

- ・釜ヶ沢地区自治振興会
- ・釜ヶ沢公民館
- ・農業組合法人清流立山
- ・地域おこし協力隊
- ・白雪農園
- ・横山ファーム
- ・立山グリーンパーク吉峰
- ・立山町商業協同組合
- ・立山町社会福祉協議会

### 活用した他の施策

- ・多面的機能支払交付金
- ・最適土地利用対策
- ・地域おこし協力隊
- ・農村プロデューサー養成講座

### 取組内容

#### 現状と課題

#### 農用地保全

- 基盤整備されていない農地が地区中心部に広がっている。
- 農業の担い手の減少により耕作放棄地が増加している。

#### 地域資源活用

- 地域資源が把握できていない。
- 来訪者に対して地域資源を提供する場がない。
- 来訪者と地域住民が交流できる場がない。

#### 生活支援

- 各集落を結ぶ公共交通機関がない。
- 生活用品を販売する店舗がない。
- 地域住民が気軽に交流できる場がない。
- 平成7年から25年間で高齢化率が約18%上昇している。  
(H7:20.2%→R2:38.1%)

#### 課題に対する対応方針

- 農地利活用調査。
- 新たに設立する農業法人による新規就農者の受け入れ及び育成。
- 新規就農者等による遊休農地再生。
- 最適土地利用対策による遊休農地の粗放的活用（放牧、蜜源作物の作付け等）。
- 事業化によって農用地保全を図る。

- 情報発信・交流拠点の整備。
- 新たな地域資源作物の栽培。
- 農泊事業。
- 地域資源直売事業。
- 地域を担う人材育成（農業×英語）。

- 地域資源作物の流通を兼ねた移動販売。
- 地域資源の地域住民への販売（買い物支援）。
- 交流拠点での健康づくりイベント。

#### 目標値（アウトカム）

- 保全対象農地：1ha（畑地、粗放管理）
- 利用目的に応じた農用地整備を実施する。
- 新規生産者：3名

- 核となる地域資源：3品目
- 農泊実施候補：2件
- 地域資源作物の販売額の像：0円 → 100千円

- 移動販売ニーズ等の調査：8集落

推しポイント 多様な構成員が連携し、新規就農者を農地再生のキーパーソンに！



かみあきづ たなべし  
**農村RMO形成モデル地区 上秋津地区 秋津野地域づくり協議会（和歌山県田辺市）**



地域資源を最大限に活用した里山周遊ツーリズムの充実、柑橘類加工品の製造・販売及び地域交通手段に関する取組を通じた持続可能な産業と集落の実現。

#耕作放棄地の再生、#スマート農業、#小水力発電、#加工品開発、#地域交通、#里山周遊ツーリズム

**対象地域**

- (事務局名)  
秋津野地域づくり協議会
- (地域の範囲)  
小学校区（11集落）
- (土地面積（R4.3月時点）)  
1,297ha
- (農地面積（R4.3月時点）)  
364ha
- (世帯数（R4.8月時点）)  
1,099戸

**構成員**

- ・農業法人株式会社秋津野
- ・農業法人株式会社きてら
- ・一般社団法人ふるさと未来への挑戦
- ・農業法人株式会社秋津野ゆい
- ・秋津野塾

**活用した他の施策**

- ・中山間地域等直接支払交付金
- ・多面的機能支払交付金
- ・農村プロデューサー養成講座

**取組内容**

**現状と課題**

**農用地保全**

- 梅生産は地域の基幹産業。
- 高齢化等による生産力低下や労働力の不足。
- 耕作放棄地が増えている。
- 土地条件に応じた効率的な利用。
- 高品質安定生産技術と省力化。

**地域資源活用**

- 柑橘生産は地域の基幹産業。
- 柑橘の皮などの未利用資源の活用。
- 小水力発電装置の整備に伴う里山周遊ツーリズム等への活用。
- スマート農業実証事業で導入した気象観測装置のデータが未活用。

**生活支援**

- 路線バスの廃止や地域住民の高齢化に伴う地域の交通手段の確保。
- 地産地消の再生エネルギーの活用。

**課題に対する対応方針**

- 安定的、持続的な生産体制構築のための組織等の立ち上げ。  
 R1 農業法人株式会社秋津野 ゆい設立  
 R2 120a圃地確保  
 R3 下畑地区遊休圃地 33a梅園に再生  
 R2 生産性向上加算交付金を活用した大型粉砕機や自走式草刈機のレンタル制度開始  
 レンタル実績 R2 31件、R3 65件、R4 58件
- 耕作放棄地の再生（梅園へ）  
 R4 佐向谷地区49ha 梅園に再生
- 耕作放棄地の再生（里山へ）  
 R5 杉ノ原地区36a モミジ・ビショコ植栽予定
- 再生圃地の栽培管理 下畑33a 佐向谷49a
- 大学生・社会人のワーキングホリデーの活用  
 R2集落機能強化加算措置を活用した泊食分離のワーキングホリデー制度開始（株式会社秋津野）  
 ワーホリ実績 R2 60人、R3 159人、R4 149人

- 柑橘加工品の開発・販売促進。  
 ダイダイピールの増産体制の整備と販路開拓  
 ポンカン精油入りシャンプー・トリートメントの販路開拓
- 小水力発電を中心としたツーリズムコンテンツの開発・事業化。
- 気象データを分析して農家へ返す仕組みづくりと観測装置の維持管理

- 移動手段確保に向けた調査実施  
 R4 アンケートでは買物・通院では困った感がなかった。  
 R5 ボランティアによるサロンバスの運行実証
- 水力発電事業調査及び事業化案作成。

**目標値（アウトカム）**

- 地域のツーリズムコンテンツに再生農地を活用。
- 交流人口の増大（50人/年）
- 柑橘加工品の開発及び販路開拓 売上（300万円/年）
- 里山周遊ツーリズムの事業化及び交流人口の増大（100人/年）
- 水力発電事業の調査報告書作成
- 高齢者等多世代交流の場づくり

**推しポイント** 平成8年に農林水産省の豊かなむらづくり表彰事業で秋津野塾が天皇杯を受賞。それ以降、住民出資で組織を立ち上げる手法を活かして、地域の様々な課題に取り組んでいます。



## 農村RMO形成モデル地区 本山町全域 本山町農村みらい会議（高知県本山町）



農用地保全、地域資源活用、生活支援の計画を策定し、地域コミュニティ機能の維持・強化に町内の組織が一体となり取り組む仕組みづくり。

#広域連携、#ビジョンづくり

## 対象地域

- (事務局名)  
本山町役場
- (地域の範囲)  
町内全域（23集落）
- (土地面積（R2.10月時点）)  
13,422ha
- (農地面積（2020農林業センサス）)  
278ha
- (世帯数（R3.4月時点）)  
1,683戸

## 構成員

- ・中山間直接支払協定
- ・多面的機能支払活動組織
- ・集落活動センター「汗見川」
- ・集落活動センターなめかわ
- ・集落営農組織（7組織）
- ・社会福祉協議会
- ・一般財団法人 本山町農業公社
- ・本山町役場

## 活用した他の施策

- ・中山間地域等直接支払交付金
- ・多面的機能支払交付金
- ・集落支援員

## 取組内容

## 現状と課題

## 農用地保全

- ・急傾斜地に形成された棚田の米作りは労働条件が非常に悪く経営継続が困難。
- ・農家の高齢化の急速な進行により、農地を耕作する人手が不足し、農地は荒廃し、集落崩壊が懸念。

## 地域資源活用

- ・人口減少や高齢化に伴って町の景観を保つことが困難。
- ・町の魅力発信が弱く交流人口が減少している
- ・特色ある農産物を活用し、製造及び加工などの6次産業化を推進。
- ・町内の加工業者や生産者が協力して商品開発を推進。

## 生活支援

- ・高齢者世帯が増加し、単身（独居）世帯や認知症の高齢者が増加。
- ・中山間地域の介護サービスの種類及び量は、都市部と比較して少なく、必要とされる居宅サービスの種類確保と介護予防の農村集落として生活支援の取り組みが必要。

## 課題に対する対応方針

- ・地域全体で米のブランド化を推進
- ・スマート農業推進で作業の省力化
- ・畔の草刈りを軽減する対策を実証
- ・集落ぐるみで農業に取り組むシステムづくりの確立。
- ・中山間地域関連事業の活用を推進。
- ・各集落の持つ地域資源を活かしたビジョン策定と実現に向けた集落営農支援の実施。

- ・地域周辺の花木点検、伐採、植栽植樹作業の実施
- ・地域の資源を活用する特色あるイベントの開催で地域資源をPR。
- ・歴史ある資源を観光に結びつける活動
- ・産地と消費者を結び販売戦略、農産物集荷、6次産業化、都市圏への販路開拓。
- ・観光と連携した事業を展開。

- ・住民の要望を掘り起こし、集落機能強化や、地区が集落活動センター等を活用して行うコミュニティ活動力の向上等の取組みを実施。

## 目標参考値（アウトカム）

- ・稲作農業の魅力化を進め1万円以上/30kgを確立
- ・水田や水路の水管理システムを構築
- ・鳥獣捕獲センサーで狩猟者の手間を軽減
- ・多面的機能交付金を活用する団体を町全体で組織化
- ・機械利用体制を構築

- ・10年後の町を予測した花街ロードマップを作成
- ・地域食材を活用した加工品を試作（1品）
- ・所得向上計画（案）策定（1式）

- ・支援サービス計画（案）策定（1式）

推しポイント キャッチフレーズは「人から人へ未来へつなげる本山町」。

